福中だより

☆☆☆教育目標☆☆☆　希望 創造 潤い

昭島市立福島中学校

令和5年7月4日 NO.4

042－541－2940

創立44年目（昭和55年開校）

諦（あきら）めず、やってみる

校長　前川　法彦

最近ニュースでよく聞く、新しい技術でアメリカの企業が開発した人工知能（ＡＩ）を使った対話型ソフトのチャットＧＰＴです。このＡＩは、インターネット上のデータを学習して、質問を入力すると自然な文章で回答しくれます。しかし、この技術は問題点や危険性があるという声が出始めています。個人情報を守るということに課題があることから、使用を規制する国もでてきているだけでなく、一番大きいのは、自分で考えることがなくなるということです。人にとって大切な思考・判断・表現が失われたとき、どのような未来を想像できるでしょうか。

日本でも活用を検討や導入を進める動きがありますが、まず自分が利用することになったときそれが本当なのか、安全であるかも気になるところです。チャットＧＰＴは、大量のデータを集めながら、学び、質問や相談をすれば、すらすらと答えてくれ、さらに文章をまとめたり小説を作り出したり絵も描いたりできる。これだけなら、メリットがあると思うかもしれないですがデメリットも大きい。それは、ＡＩを利用していく中で、間違った情報を含む答えや攻撃的な表現で答えたことがあるということでした。これは、ネット上の真偽が不明な情報、フェイクニュースも取り込んでしまうためです。ネット上にある個人情報も学習データに使われますので、もし悪用されてしまうとどうなるのでしょうか。仮に、学習に使えば、読書感想文でチャットＧＰＴに作者や作品を入力して頼めばあっという間に書いてくれる。文章を書く力は付かず、自分で考えるという学習への姿勢や意欲を失わせてしまうでしょう。

さて、皆さんは帝都大学理学部　湯川学准教授を知っていますか。東野圭吾の小説、ガリレオシリーズの主人公のセリフです。難しい問題に直面してくじけそうになっている高校生に彼が言います。「諦（あきら）めるな。過去の人間が考えついたことを、若い君たちが理解できないなんてことはない。一度諦めたら、諦め癖がつく。解ける問題まで解けなくなる」なるほど、勉強だけでなく、部活動でも、諦め癖は怖い。諦めることに慣れてしまい、もう少し努力すればできることもできなくなってしまう。仕方なしにやっている時、止める言い訳として「どうせやったって」とか「無理」をよく使います。しかし、自分で自分自身の可能性を考えて目標を立て、実現に向けて努力するなら、「どうせやったって」ということはないはずです。大事なのは、目標に向けて、諦めず、自分自身への挑戦・チャレンジを続けることです。